

「国際化」と「グローバル化」

Topic

- 1 センター長よりメッセージ:
「国際化」と「グローバル化」
- 2 留学フェア(荒牧地区)報告
- 3 夏季英語研修報告
- 4 Jプログラム報告(その1)
- 5 日本語授業科目
- 6 留学生相談

Data

- 1 海外渡航学生数・受入留学生数
- 2 協定校数・新規締結先

かつてわたしたちが目指した「国際化」という言葉は現在使われることが少なくなり、その代わりに良く聞かれるのが「グローバル化」という言葉です。

通常、「国際化」は国家的枠組みを前提とし、国境を越えた個人や組織の活動が拡大することを意味するのに対して、「グローバル化」は人、文化、思想、知識、技術、経済などが国境を越えて移動し、世界中が結びついて相互に依存する状況になることと理解されています。特にメディアでも常に報道されている経済のグローバル化は否応なく進んでおり、今後日本だけがその流れから取り残されることはありません。

群馬大学は、未来を担う皆さんには、国境を取り払い、世界の人々と価値観や認識を共有して共存できるグローバルな人材として社会へ巣立って欲しいと考えています。そのために国際教育・研究センターは、国や文化の垣根を越えて交流できる「グローバル・コミュニケーション力」をより高めたい皆さんをサポートします。学生や教員の海外派遣や受入れはもちろんですが、今後はさらにキャンパスのグローバルな環境づくりに努め、日本にいながらもグローバル・コミュニケーションが可能な活動を進めて行く予定です。

国際教育・研究センター長 末松美知子



・2015年5月ボストンにて行われた国際留学フェア(NAFSA 年次総会、Study in Japan ブースにて。末松センター長(左下)、Bergeron 講師(右上)と協定校・英国キール大学スタッフ。

▼ 会場の様子



留学フェア(荒牧地区)報告



留学生活から得られたことが楽しく語られ、今後留学を目指す学生への励ましのメッセージとなりました。

5月13日(水)、荒牧キャンパスミューズホールにおいて留学フェアが開催されました。留学フェアでは、毎年、本学の留学制度や奨励金等についての幅広い情報を学生に提供しています。今年も海外留学に関心のある学生が多数来場し、会場内外に設けられた個別相談ブースで留学の準備や語学学習について相談したり、留学を経験した学生達の体験談を聞いたり、熱心に参加していました。中には相談待ちの椅子が埋まるほど賑わいを見せたブースもありました。

相談ブースの他、招聘講師2名の講演と学生の留学報告が行われました。株式会社アイエスエイの登坂貴氏からは「企業が求めるグローバル人材とは」として留学することのメリット等を実体験に基づいてお話いただき、国際教育交換協議会(CIEE)の掘越敏明氏からは「海外短期ボランティアの魅力」として、一味違った海外体験、ボランティア活動についてご紹介いただきました。その後、本学の交換留学生による留学体験発表、そして短期英語研修参加者による報告がありました。

関係者皆さまのご協力により、今回の留学フェアには約250名の参加が得られました。ここで得た知識や情報を活用し、学生の海外留学への意欲がさらに高まることが期待されます。

国際教育・研究センター講師 古川敦子

夏季英語研修報告



緑と澄み渡る青空に映える
キール大学の校舎。

8月から9月にかけて、オーストラリア・ウーロンゴン大学とイギリス・キール大学にて英語研修プログラムが実施され、ウーロンゴン大学4名(理工学部4名)、キール大学7名(社会情報学部2名、理工学部5名)が参加しました。ウーロンゴン大学は4回目の研修、キール大学は新規の研修です。5月から募集を開始し、7月から8月にかけて危機管理、前回参加学生との情報交換、English Workshop等4回に渡る事前オリエンテーションを経ての出発となりました。

ウーロンゴン大学は、広大で緑豊かなキャンパスと間近にあるビーチ、キール大学は、広大な敷地に伝統的な雰囲気と備えた校舎といった魅力的な環境の中、英語研修、課外活動、ホームステイ体験等を行うという充実した1ヶ月でした。日本国内では得られない異文化、多文化に触れる機会を通し、「もっと英語を勉強しなくては」「また、必ず行きたい」といった声が多く聞かれました。英語学習に対する意欲と次なる目標を発見しての帰国となったようです。

国際教育・研究センター講師 船橋瑞貴/Sylvain Bergeron

オーストラリア・ウーロンゴン大学	8/14-9/14	英語研修、サイエンス研究センター見学、小学校訪問等
イギリス・キール大学	8/22-9/20	英語研修、英国放送協会(BBC)見学、プロジェクトワーク等

Jプログラム報告～その1：日本入門特別講義

2014年度（2014年10月～15年9月）のJプログラムについて、二回にわたって報告します。Jプログラムとは、日本語や日本文化など日本研究を専攻する日本語日本文化研修留学生（日研生）や交換留学生を対象にしたもので、プログラム学生は、10月から1年間、前半では主に日本語の能力を高め、日本文化・社会などへの理解を深めます。後半では自分の研究テーマに沿って調査を行い、その結果を発表し、論文にまとめます。

今回は「日本入門特別講義」（教養教育「日本語・日本事情科目」2単位）を紹介します。この講義は本プログラムの目玉の一つで、1教員1コマのオムニバス形式で行われます。教員は自分の専門分野と日本を関連づけて講義をします。教員は全学部等から派遣されるので、文理を問わず、あらゆる学問領域から、学生は日本に関するさまざまな知見を得ることができます。今年度は、社会情報学部からは「恋愛の文化史」（荒木先生）と「結婚の社会学」（伊藤先生）、教育学部からは「日本の数学」（伊藤先生）と「歌舞伎音楽の世界」（川上先生）、理工学部からは「数理パズル」（中野先生）と「日本とロボット」（山田先生）、医学科からは「甲状腺の機能と病気」と「熱中症の原因と予防」（ともに鯉淵先生）、保健学科からは「日本の国際協力」（森先生）と「日本の住宅、日本の生活様式と障害者のリハビリテーション」（亀ヶ谷先生）、教育基盤センターか



全学部の教員によって、日本に関する様々な講義がオムニバス形式で行われるJプログラム「日本入門特別講義」。

らは「日本語の勉強を振り返って」（サンブソン先生）、国際教育・研究センターからは「日本の演劇」（末松センター長）、「言葉とコミュニケーション」（井門副センター長）、「言葉の変化とコミュニケーション」（牧原先生）という14の講義が提供されました。どの講義もとても興味深く、受講学生は毎回熱心に聞き入っていました。講義は日本語で行われますが、それまで習ったことがない「日本語」に遭遇し、戸惑いながらも知的好奇心を掻き立てられているようでした。学生は前半と後半の講義から一つずつ選択してレポートを提出します。12名の学生が登録し、11名が単位を得ました。次回はもう一つの目玉、「課題研究」についてお話しします。

国際教育・研究センター准教授 野田岳人

outbound

- 海外渡航学生数
131名(2014年度)
- 受入留学生数
232名(2015年10月1日時点)

inbound



協定校

2015年10月現在、群馬大学では33か国1地域、114校と協定を結んでいます。

2015年は、国立勤益科技大学（国名）、マラ技術大学トレンガヌ校（国名）、忠南大学校（国名）、リエージュ大学（国名）と新たに協定を締結しました。

日本語授業科目

国際教育・研究センターでは、全体としての開講授業コマ数の削減を求められてきた関係で、平成 27 年度に開講する授業数は、平成 25 年度比で 20%程度減少しています。その中で、受講学生の希望、レベルに合った授業を提供できるよう、効率的な授業配置に取り組んでいます。

平成 27 年度の日本語のクラスは、大きく分けて以下のような構成になっています。

1. 学部・大学院開講の授業科目
2. 教養教育科目
3. 上記以外の補講科目

1と2は単位認定のある授業となりますが、3は単位認定はありません。1の学部・大学院開講の授業科目は医学系研究科と教育学部で開講されています。医学系研究科の科目は初級レベル、教育学部の科目は中級レベルの学生を対象としています。2の教養教育科目は学部の正規留学生と交換留学生を対象に荒牧キャンパスで開講されます。レベルは中級から上級までです。3の補講科目はゼロスターターから中級レベルくらいまでの学習者を対象としており、桐生キャンパスと昭和キャンパスで開講されます。

授業の詳細は、国際教育・研究センターと国際交流課で作成している「群馬大学留学生便覧」に記載されています（国際教育・研究センターホームページにアップロードしています）。日本語科目を受講する必要がある場合などは、上記便覧を参照の上、各コースのコーディネーターに連絡してください。

国際教育・研究センター准教授 牧原功



日本語の授業の詳細は留学生便覧に記載されています。便覧はセンターホームページにも掲載されています。

留学生相談



留学生の6割以上が在籍する桐生キャンパスでは、留学生相談室(7号館516)も設けています。

留学生は慣れ親しんだ母国の環境から離れて日々を過ごす中で、日本語学習上の問題、経済的な問題、研究室の人間関係、住居のトラブル、就職活動、進路など様々な困難に遭遇しています。そうした留学生ができる限りスムーズに留学生活が送れるよう国際教育・研究センターでは、全教員が相談の時間を設け対応しています。

留学生相談は荒牧、昭和、桐生の3キャンパスで実施しており、各教員の担当時間、面談予約の方法等は、留学生メーリングリストおよび国際教育・研究センターホームページにて毎月お知らせしています。

特に留学生が多く所属する桐生キャンパスでは、留学生相談室(7号館516)に留学生アドバイザーも配属し、相談に対応しています。2015年度後期は毎週木曜日12:00~15:00に開室しています。

国際教育・研究センター講師 大和啓子